



# 第17回(令和元年度)

# 全日本ゼネラルチャンピオン賞 ダイヤモンドマーク賞

## 及川 茂鳩舎(東京中地区連盟・新日本連合会)

鳩舎規模、鳩舎位置といった鳩レース特有のハンディキャップがほぼ解消され、〆レースマンとしての実力が最も問われる、マークタイトル「全日本ゼネラルチャンピオン賞」。平成から令和に元号が変わった本年度の頂点——〆ダイヤモンドマーク賞、は、ポイントではなく〆入賞率勝負、の三つ巴に！結果、「ゼネラルの絶対王者」こと及川 茂鳩舎(新日本)が、2年ぶりに〆もう一つの日本一、に振り返いた。絶対的エースをはじめ、頼れる成鳩が引退したことで「18年生まれ」が中心となりながらも9ポイント獲得できたのは、原点回帰だけでなく、〆タテ、以上に〆ヨコ、のラインに注目したことにあった。



獲得ポイント

2年ぶり  
13回目  
全国 1位

9pt

合計入賞率：0.42927

### 【及川 茂鳩舎のプロフィール】

- ◆鳩歴：60年 ◆レース歴：60年
- ◆鳩舎規模：種鳩15坪・100羽 選手鳩10坪・140羽
- ◆主力系統：若大将系、及川シャンテリー系、コンピューター系
- ◆代表翔歴：日本優秀鳩舎賞、日本エースビジョン賞、ダイヤモンドマーク賞 KBDB会長賞全国優勝 各歴代最多受賞 200K-1000K各連盟優勝
- ◆春レースのスタート羽数：60羽
- ◆選定スタイル：
  - Rg …データとコンディション
  - 地区N …データとコンディション
  - GP …データとコンディション
  - 桜花賞 …データとコンディション

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①18MM00008	B	♀	748羽	4位	0.00535
	②18MM01203	S	♂	748羽	3位	0.00401
	③18MM01246	S	♂	748羽	58位	0.07754
地区N	④18MM01141	B	♀	552羽	18位	0.03261
	⑤18MM00008	B	♀	552羽	21位	0.03804
	⑥18MM01203	S	♂	552羽	45位	0.08152
GP	⑦18MM01150	BC	♀	282羽	8位	0.02837
	⑧18MM01203	S	♂	282羽	20位	0.07092
桜花賞	⑨18MM01141	B	♀	77羽	7位	0.09091



## 近年稀に見る

### 三つ巴決戦!

鳩レースの本場・ベルギーでは、マーク的中数を競う「ゼネラルチャンピオン賞」が最も権威あるタイトルである。参加羽数が強制的に該当数に制限されることで、鳩舎規模での不平等さを一蹴し、また「5%以内に入賞したら1点」といったポイント制を採用することで、地理的ハンデを可能な限り解消。レースマンとしての実力が大きく抽出されるため、「最高賞」として古くから君臨しているのだ。全日本ゼネラルチャンピオン賞もベルギーの規程に倣い、鳩レースにおけるハンデがほぼ解消されたものとなっている。まさに「日本一のレースマン」を決めるにふさわしいタイトルなのだ。

さて本年度の全日本ゼネラルチャンピオン賞は、「20%以内入賞で1ポイント」というルールに変わりはしないものの、対象レースを春シーズンのみに限定。Rgと地区Nを各「3点」、GPと桜花賞或いはGNが各「2点」となり、合計10点が最高点となっている。令和という新時代を迎え、リニューアルされた全日本ゼネラルチャンピオン賞。その頂点にあたる「ダ

イヤモンドマーク賞」は、「9ポイント」を獲得した3鳩舎で競われた。例年であれば、9回マークを的中すれば「単独」で「ダイヤモンドマーク賞」の受賞が必至であることはいわずもがな。近年稀にみる三つ巴の入賞率勝負の中、堂々「もう一つの日本一」に輝いたのは、及川茂鳩舎(新日本)。ゼネラルの絶対王者が2年ぶり10回目の「ダイヤモンドマーク賞」を手にした。

### 系統ではなく「配合」で抽出!

新ルールになりながらも絶対的強さを示した及川鳩舎。かつてダイヤモンドマーク賞の受賞に2回貢献した絶対的エース「マークシャunterリー号」が引退してしまったため、選定方法は原点に戻っている。それは血統で羽数を10羽前後まで絞り、最後はコンディションで決めるといったものだ。

とはいえ今回、血統で絞ったこととは間違いないが、「配合」といった方が正しい。つまり全兄弟の実績で選定したのだ。白羽の矢を立てたのは、3つの交配である。1つ目は、17年に日本AP賞、18年秋に連盟AP賞2位を誕生させた交配「ターボシャunterリー号×ベストシャunterリー号」。しかもこの配

合はタテでも何代にもわたってAPを誕生させてきた、まさにAPファクトリーだ。

2つ目は、16年に地区N総合優勝を含め総合シングル鳩を4羽輩出した交配「ペンシルデカプリオ号×ミスシャunterリー号」である。そして3つ目は源鳩「若大将号」の血量が少ないながらも「若大将号」を彷彿させるような「リーサー」を量産する「リアルシャunterリー号×ワイン若大将号」だ。この配合からはすでに800Kで連盟2位に入賞したCHが作り出されており、むろん「ヨコ」での実績も意識して選ばれている。

1つ目の交配で作られた「リーサー」は、「ターボ軍団」と呼ばれ、及川鳩舎の読み通り19年春を席巻。とりわけ「18MM00008(①&⑤)」は、マーク鳩としてRgと地区Nで2ポイント獲得しただけでなく、日本AP賞にも選出されている。一方、全兄弟の「18MM01150(⑦)」もGPで1ポイントゲットした上、桜花賞でもノーマークでありながら上位に入賞し、連盟の長距離AP賞も獲得した。

2つ目の交配では「18MM01203(②&⑥&⑧)」の一点買いである。このトリは、Rg、地区N、GPの3レースでポイントを獲得。

配合で選んだとはいえ、3レース連続マーク鳩として参戦しているということは、よほどコンディションが良かったのであろう。「ゼネラルのエース」として存在感を示したが、桜花賞前の舎外でオオタカにまさかの捕食…。桜花賞への参加は叶わず、その代わりに成鳩で系統的に1000Kに強い「17MM00910」をマークしたのだが…。この1羽は残念ながら未帰還となっている。

3つ目は「若大将号」のマスクになるトリを——と思いきや、別タイプのマークしたようだ。「ジスターリアル若大将号」と名付けられた「18MM01141(④&⑨)」は、「及川シャunterリー系」でよくみられる優しい顔をしており、地区Nと桜花賞でポイントを獲得。Rgでも総合ベストテンに絡んでおり、日本AP賞の規程までクリアした、まさに「エース」だ。

### 強さだけでなく

### 愛情度も推し量る

果たしてこの3交配で8ポイントを獲得したわけだが、残り1ポイントは配合で選ばれたというわけではないようである。Rgで1ポイント獲得した「18MM01246(③)」は、前年秋のAP賞1



ダイヤモンドマーク賞(全国1位)受賞のポイントゲッター総覧

③東京中連盟Rg748羽中総合58位

“フライツァーシャンテリー号”

18MM01246 S ♂ 及川 茂鳩舎作翔

\*18年秋AP賞連盟1位

→“フライツァーキング号”14HA08335 B 一文字ロフト作  
→“フライツァー”(07年オリンピックアド  
中距離部門世界1位)×04年アルジェントN優勝  
→“SWシャンテリー93号”09MM02293 S 及川 茂作翔  
10年春200K総合10位、地区N総合4位  
→“シャンテリースプリンター”×“シャンテリーホープ”  
直仔/平成28年度日本AP賞全国1位  
全兄弟/日本AP賞全国2位2羽(平成18年、22年)、  
桜花賞総合優勝2羽他

④東京中連盟地区N552羽中総合18位

⑨東京中連盟桜花賞 77羽中総合7位

“シスターリアル若大将号”

18MM01141 B ♀ 及川 茂鳩舎作翔

全兄弟/16年春GP連盟2位

→“リアルシャンテリー号”14MM00017 BC 及川 茂作翔  
平成27年度KBDB会長賞東京地区4位  
→(“シャンテリーシルバー号”×“スプリンター号”)×  
→(“シャンテリーNo1号”×“プリンセスインパニス号”)  
→“ワイン若大将号”14MM00024 B 及川 茂作翔  
15年春長距離AP賞連盟2位  
→“シャトロー若大将号”09MM01075 BC 及川作翔  
09年秋AP賞連盟1位  
→“ワインシャンテリー号”  
13MM00015 B 及川作翔  
平成26年度KBDB会長賞全国優勝

⑦GP東京中連盟282羽中8位

“ターボシャンテリー50号”

18MM01150 BC ♀ 及川 茂鳩舎作翔

\*19年春長距離AP賞連盟2位

全兄弟/18MM00008(①&⑤)、18年秋AP賞連盟2位

→“ターボシャンテリー号” BC 及川 茂作翔  
15年秋AP賞連盟1位 全兄弟/16年秋AP賞連盟1位、2位  
→“007号”NL09-1349007 BC レジレンス作  
→“クライネディルク”の孫 200K&300K総合優勝の父  
→“ミス怪物シャンテリー336号” BC 及川作翔  
14年秋AP賞連盟1位  
平成15年度会長賞×平成19年度日本AP賞全国8位  
直仔/12年ワンロフトレース500K優勝  
→“ベストシャンテリー号” BC 及川 茂作翔  
12年春300K総合7位他  
→“シャンテリー019号” B 及川作翔 04年秋200K総合優勝  
→“シャンテリースプリンター”×“シャンテリーホープ”  
→“ベストコンピューター号” BCW 及川作翔  
12年春中距離AP賞連盟2位他

①東京中連盟Rg 748羽中総合4位

⑤東京中連盟地区N552羽中総合21位

“ターボシャンテリー8号”

18MM00008 B ♀ 及川 茂鳩舎作翔

\*令和元年度日本AP賞全国7位、KBDB会長連盟1位

全兄弟/18MM00150(⑦)、平成29年度日本AP賞全国6位

→15MM01477 BC 及川 茂作翔  
15年秋AP賞連盟1位 全兄弟/16年秋AP賞連盟1位、2位  
→NL09-1349007 BC レジレンス作  
→“クライネディルク”の孫 200K&300K総合優勝の父  
→08MM00336 BC 及川作翔 14年秋AP賞連盟1位  
平成15年度会長賞×平成19年度日本AP賞全国8位  
直仔/12年ワンロフトレース500K優勝  
→11MM00026 BC 及川 茂作翔 12年春300K総合7位他  
→03MM00019 B 及川作翔  
04年秋200K総合優勝  
→“シャンテリースプリンター”×  
→“シャンテリーホープ”  
→10MM02040 BCW 及川作翔  
12年春中距離AP賞連盟2位他

②東京中連盟Rg 748羽中総合3位

⑥東京中連盟地区N552羽中総合45位

⑧GP東京中連盟 282羽中20位

“シャンテリーデカプリオ203号”

18MM01203 S ♂ 及川 茂鳩舎作翔

\*全兄弟/16年地区N総合優勝、Rg総合3位、300K総合6位、9位

→“ペンシルデカプリオ号”14KA19981 B 富野次夫作  
→(“ディカプリオ”×“カニバル”娘)×“ディカプリオ”の孫  
→“ミスシャンテリー号”11LC02017 S 及川 茂作  
11年秋ワンロフトレース200K5位 300K優勝  
→“シャンテリーNo1号”  
→03MM00001 S 及川作翔  
04年春Rg総合16位他  
→“シャンテリースプリンター”×  
→“シャンテリーホープ”  
→“プリンセスインパニス号”  
B06-2174437 BW  
インパニス作  
“デン・アス”娘



位に選出。この実績を買われた上、コンディショニングも悪くなかったためマークに選定されたようだ。

交配、そして実績で絞られた上、前述の通り、最終的にはコンディショニングで決める。及川鳩舎が見るポイントはその首の艶で「メタリックになつている」「つまり血流の良さを主に判断しているとのことだ。しかしこの変化に気づくには、毎日レース鳩を観察することが重要だという。

血統で羽数を絞り、コンディショニングで選ぶというこの「及川スタイル」は、現在主流となりながらも、ポイント勝負でランキングが決まりやすくなつてきているのは、まだまだ本場と比べて「気づく」ための時間が足りないのかもしれない。つまりこのゼネラルチャンピオン賞は単に実力を測るものだけではなく、このホビーにどれだけの時間を割いているか——レース鳩への愛情度を測るタイトルでもあるのだ。

「365日、鳩」が motto であるがゆえ、協会のYouTubeチャンネルで流されているレース鳩への対応からは、及川鳩舎が鳩レースという趣味をどれほど愛しているか伺える。令和という新時代になりながらも、結果は不変——。真のレースマンであり愛鳩家が「もう一つの日本」に輝いた。



# 第17回(令和元年度)

# 全日本ゼネラルチャンピオン賞・プラチナマーク賞

ナンバーワンポイントゲッター

- ①しょうなん連盟Rg 878羽中総合169位
- ⑦GPLしょうなん連盟 211羽中 19位
- ⑨しょうなん連盟桜花賞 55羽中総合 2位

17ES00081 BC ♀

高橋和男鳩舎 作出 青柳良雄鳩舎作翔

\*令和元年度KBDB会長賞連盟1位



4年ぶり  
2回目

全国2位

青柳良雄鳩舎

(しょうなん地区連盟・平塚中央連合会)

獲得ポイント

9pt

合計入賞率：0.78171

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①17ES00081	BC	♀	878羽	169位	0.19248
	②18ES04111	BC	♀	878羽	39位	0.04442
	③18ES04138	BCW	♂	878羽	27位	0.03075
地区N	④18ES04138	BCW	♂	452羽	48位	0.10619
	⑤18ES04111	BC	♀	452羽	70位	0.15487
	⑥18ES04143	B	♂	452羽	49位	0.10841
GP	⑦17ES00081	BC	♀	211羽	19位	0.09005
桜花賞	⑧17ES00118	B	♀	55羽	1位	0.01818
	⑨17ES00081	BC	♀	55羽	2位	0.03636

- 14ES01030 BC 高橋和男 作
- 15年桜花賞総合11位
- 06ES04991 高橋 作翔 桜花賞1000K総合7位
- 地区N総合2位×埼玉連盟最優秀鳩賞の娘
- 10SB04707 BC 川森 旭作 ナンバー系
- 最高種鳩「120号」直仔×孫
- 「コンサンガン・ヤン」
- B16-2250375 B ヤン・クラウド 作
- レオ・ヘレマンズの「ド・ヤン」重近親

### 【青柳良雄鳩舎のプロフィール】

- ◆鳩歴：57年 レース歴：54年
- ◆鳩舎規模：種鳩10坪・80羽 選手鳩10坪・110羽
- ◆主力系統：ローセンス系、グロンドラス系、ヤンセン系
- ◆代表翔歴：Rg～桜花賞各総合優勝
- ◆春レースのスタート羽数：65羽
- ◆選定スタイル：  
Rg…データとコンディション  
地区N…データとコンディション  
GP…データとコンディション  
桜花賞…データとコンディション

全日本ゼネラルCH賞の全国2位にあたるプラチナマーク賞は、15年にベストマーク賞を獲得した実績者・青柳良雄鳩舎(平塚中央)が選出された。獲得したポイントは「9」。入賞率差で惜しくも2位となった形だ。青柳鳩舎曰く「フロックだとは思われない」という理由から2度目の受賞を狙っていたとあって、獲得した喜びが大きかったことはいわずもがなである。さて青柳鳩舎の選定法は、今回のダイヤモンドマーク賞受賞者・及川茂鳩舎と非常に似ている。選手鳩全てから選ぶのではなく、血

系統で「GPまで」と「桜花賞以上」に分けて

統で厳選した後、最後はコンディション——舎外の飛びやバランスと羽艶の良さで決めるといったスタイルだ。血統での選別は大まかに800Kまでが「ヤンセン系」、「グロンドラス系」、「ローセンス系」、1000K以上が「ナンバー系」のレーサーとなっている。ただし今回3ポイントをもたらしたナンバーワン貢献鳩「17ES00081(左上掲)」に関しては例外だ。KBDB会長賞の連盟1位を獲得したこのレーサーは、「ナンバー系」色が強いとはいえ、前年の実績から、あえてRgから選抜。結果、RgとGPで各1ポイント、そして桜花賞でも1ポイント獲得している。なお地区Nはコンディション不良という判断からマークからは外されたものの、20%内に帰ってきており、前述の成績からも「17ES00081」はエース中のエースだ。来年も参戦させるようで、再び「ゼネラルのエース」を担うことになるのか、注目だ。また桜花賞のもう1羽のポイントゲッターも現役続行が決まっており、戦力的に2年連続受賞も十分あり得る。その一方で、昨年桜花賞での失格がなければ受賞できたはずの「日本優秀鳩舎賞」という忘れ物さえ手にしてしまうかもしれない。





# 第17回(令和元年度) 全日本ゼネラルチャンピオン賞・ ゴールドマーク賞

ナンバーワンポイントゲッター

- ②東海連盟Rg 1,574羽中総合217位
- ⑤東海連盟地区N410羽中総合 19位
- ⑥東海連盟CH 149羽中総合 9位

16SA12398 B ♀ 岩田義幸鳩舎作翔

\*令和元年度 KBDB会長賞連盟3位  
平成30年度 KBDB会長賞連盟2位

初

岩田義幸鳩舎  
(東海地区連盟・尾張連合会)

全国3位

獲得ポイント

9pt

合計入賞率：0.88838

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①16SA12399	B	♀	1,574羽	60位	0.03812
	②16SA12398	B	♀	1,574羽	217位	0.13787
	③18SA06810	B	♂	1,574羽	302位	0.19187
地区N	④18SA06810	B	♂	410羽	14位	0.03415
	⑤16SA12398	B	♀	410羽	19位	0.04634
	⑥16SA12399	B	♀	410羽	56位	0.13659
GP	⑦18SA06837	B	♂	122羽	10位	0.08197
CH	⑧16SA12398	B	♀	149羽	9位	0.06040
	⑨16SA12399	B	♀	149羽	24位	0.16107



- 14SA03274 B 岩田義幸作
- 「ド100」NL00-0037100 BC ホーグ父子作翔
- ファンデウェーゲン系×コール・デハイデ系
- 09SA14222 BW 岩田作 モスキート系
- 14SA01549(15年生) B 岩田義幸作翔
- CH900K総合5位
- Rg総合優勝の全兄弟
- (最優秀鳩舎賞×Rg総合優勝)×
- 13SA06342(KBDB会長賞中部地区5位)

### 【岩田義幸鳩舎のプロフィール】

- ◆鳩歴：53年 ◆レース歴：50年
- ◆鳩舎規模：種鳩4坪・60羽 選手鳩6坪・80羽
- ◆主力系統：モスキート系 ファンローン系
- ◆代表翔歴：200K～1200K各総合優勝あるいは5位以内多数
- ◆春レースのスタート羽数：27羽
- ◆選定スタイル：
  - Rg …データとコンディション
  - 地区N…データとコンディション
  - GP …データとコンディション
  - CH …データ

2羽の成鳩APが勇躍！

「ダイヤモンドマーク賞」「三つ巴に参戦しながらも、悔しくもゴールドマーク賞(全国3位)となったのは、岩田義幸鳩舎(尾張)だ。レース歴50年の大ベテランであり、東海連盟の強豪として名を馳せている実力者である。

同鳩舎に大きく貢献したのは、成鳩だ。9ポイント中6ポイントが16年生生まれの2羽によってもたらされている。いずれも「過去の成績」によって選出。1羽目は、前年KBDB会長賞連盟2位を獲得した実績を買われたのであろう。「16SA12398(右上掲)」は、Rg、地区N、CHでマーク鳩として参戦。

3戦とも20%以内に入賞した上、2年連続KBDB会長賞ベスト3入りを果たした。2羽目の「16SA12399(①&⑥&⑨)」もまた昨年KBDB会長賞の規程をクリアした実力からRg、地区N、CHに臨み、3ポイントを獲得。なおこの2羽は、自鳩舎の主力系統「モスキート系」、「ファンローン系」で構成された「13SA06342」というKBDB会長賞中部地区5位の直系であり、またRgと地区Nでポイント獲得した「18SA06810(③&④)」もその孫鳩だ。なお今シーズン2回ベストテン入賞を果たした上、GPで1ポイントを得た「18SA06837(⑦)」は、「13SA06342」の直系ではないものの、その父鳩「05SA15346(\*モスキート系)」の曾孫。つまりポイントゲッターは全て同系というわけである。それゆえか、全レース「族の成績—AP」を参考にマーク鳩は選ばれていた。その一方、CH以外「コンディション」も参考にしており、とりわけ「動作」の面で発情していなくてシャキッとしているレーサーに注目したようである。

岩田鳩舎の規模は小さく、今春のスタートは27羽だ。「小規模鳩舎の星」が名門・東海連盟の枠を超えて、全国に「実力」を示した。



# ンピオン賞・ベストマーク賞



## 小川安都志鳩舎(千葉東地区連盟・東金セントラル連合会)

獲得ポイント

# 8pt

合計入賞率：0.64667

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①18LK00946	B	♂	4,208羽	170位	0.04040
	②18LK00969	BC	♀	4,208羽	36位	0.00856
地区N	③18LK00939	S	♂	3,332羽	596位	0.17887
	④18LK00969	BC	♀	3,332羽	550位	0.16507
	⑤18LK00946	B	♂	3,332羽	111位	0.03331
GP	⑥17LK06068	BWP	♀	2,595羽	56位	0.02158
桜花賞	⑦18LK00977	B	♀	714羽	137位	0.19188
	⑧17LK06068	BWP	♀	714羽	5位	0.00700



全国4位

初受賞

小川鳩舎は今年、前述のエースのパワーで日本優秀鳩舎賞にも選出。最高賞三冠を達成し、然るべき実力者であることを証明した。

一方のコンディションでは「筋肉の張り」と「羽毛のツヤ」を参考。桜花賞では「舎外の飛び」を加えた3点に注目して、マークを決めている。

小川鳩舎の考えでは「本来の性能を引き出すにはコンディションが良くなければいけないし、またどんなにコンディションが良くても性能が伴っていないければだめ」。そのため、主に「データとコンディション」に注目してマークを決めたようである。データでは主に「過去の成績」で「平均して速い」トリに注目し、桜花賞のみは、「長距離は血統」というフレーズがあるように小川鳩舎も「一族で長距離に実績を残している」ものを選出したとのことだ。

全日本ゼネラルC日賞の全国4位は「ベストマーク賞」の頂点にあたる。本年度射止めたのは、「8ポイント」を獲得した小川安都志鳩舎（東金セントラル）。再開わずか1年で日本優秀鳩舎賞全国2位に輝いた。実力派は3年目で堂々初受賞を果たした。

ポイントゲッターが「スーパー」へ示した然るべき実力!

## 古西正二鳩舎(千葉東地区連盟・東総連合会)

獲得ポイント

# 7pt

合計入賞率：0.49838

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①18LK00398	B	♀	4,208羽	253位	0.06012
	②18LK00367	BCW	♀	4,208羽	1位	0.00024
	③18LK00382	BC	♀	4,208羽	225位	0.05347
地区N	④18LK00354	B	♀	3,332羽	478位	0.14346
	⑤18LK06838	B	♀	3,332羽	80位	0.02401
	⑥18LK00367	BCW	♀	3,332羽	350位	0.10504
	⑦18LK00347	DC	♀	714羽	80位	0.11204



全国5位

2年連続2回目

セカンドは伊達ではない。

管理法、戦力共に「中距離仕様」のままであるため、長距離で苦戦したが、それでも小規模鳩舎でありながら全国への扉を開いたことしかも、実力が最も求められるこの賞を受賞したことは見事だ。前年のトリプル

前年の「スーパーガール」のように絶対的エースが存在しない中、主に持ち寄り時のコンディションで選定。Rgと地区Nは、掌で決め、とりわけ筋肉が盛っていて軽い鳩を選んだようだ。この手法で6点獲得し、うち「18LK00367(②&⑥)」はRg総合優勝。しかもこの1羽は地区Nにもマーク鳩として参戦し、ポイントゲッターとしての役割を果たしている。そしてGPと桜花賞は感覚から視覚にチェンジ。目が輝いているか、羽毛に艶がでているか、動作が落ち着いているか、この3点に注目したものの、残念ながら桜花賞の1ポイントに止まる。

昨年、最高賞——「日本優秀鳩舎賞」(全日本ゼネラルC日賞)、「日本AP賞」その全てで2位を獲得し、華々しく全国デビューを飾った古西正二鳩舎(東総)。今年は全日本ゼネラルC日賞のベストマーク賞に選出された。獲得したポイント数は「7」。三つ巴の接戦の末、入賞率差で「全国5位」を獲得した形である。

トリプルセカンドは伊達でない!



# 第17回(令和元年度)全日本ゼネラルチャ



## 鈴木邦由鳩舎(千葉東地区連盟・北総連合会)

獲得ポイント

# 7pt

合計入賞率: 0.60029

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①18LK06015	B	♀	4,208羽	88位	0.02091
	②16LK16819	B	♀	4,208羽	94位	0.02234
地区N	③18LK06015	B	♀	3,332羽	11位	0.00330
	④18LK06016	BW	♀	3,332羽	236位	0.07083
GP	⑤18LK13349	B	♀	2,595羽	330位	0.12717
桜花賞	⑥18LK01818	BCW	♀	714羽	121位	0.16947
	⑦18LK13349	B	♀	714羽	133位	0.18627

タイトルの本懐を証明!

全国6位に輝いたのは鈴木邦由鳩舎(北総)である。今は亡き巨匠・岩崎兼三鳩舎の飛び筋、地元の強豪・佐藤元鳩舎經由の輸入系をベースに、千葉東連盟を舞台に総合シングル入賞多数のキャリアを持つ、知る人ぞ知る実力鳩舎だ。ゆえに調整方法も「よく飛ばしてよく食わせる」という好循環をもつて、この賞レースに参加している。

鈴木鳩舎はレース毎に参考にしたものが異なっている。Rgと地区Nは「データ」と「コンディション」の両面。前者だと「春のレースの成績」に着目し、Rgは「平均してますますの成績」、なおかつ系統として安定感のあるものを選んだようだ。一方の地区NはRgのスタイルを踏襲しながらも「18LK06015(①&③)だけはRgの実績からマーク。各2ポイントを獲得している。

GPと桜花賞は「データ」のみを参考。GPは「地区Nまで平均して速い」、桜花賞は「長距離＝血統」と言われているためか、「一族の実績」で選定したとのことだ。結果、後者の桜花賞ではフルポイントマークしており、前述のフリーズを見事なまでに体現している。

鈴木鳩舎はこの賞レースを21羽でスタート。「ゼネラルC日賞」の本質通り——実力さえあれば鳩舎規模など関係なく、授賞できるということを証明した。



## 黒田哲夫鳩舎(千葉東地区連盟・上総連合会)

獲得ポイント

# 7pt

合計入賞率: 0.77463

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①16LK03364	BC	♀	4,208羽	481位	0.11431
	②17LK00871	BC	♀	4,208羽	239位	0.05680
地区N	③17LK00734	BC	♀	3,332羽	458位	0.13745
GP	④16LK03364	BC	♀	2,595羽	504位	0.19422
	⑤17LK00734	BC	♀	2,595羽	4位	0.00154
桜花賞	⑥17LK00734	BC	♀	714羽	90位	0.12605
	⑦17LK00916	BC	♀	714羽	103位	0.14426

一戦一戦、それ仕様のレーサーをマーク!

全国7位には黒田哲夫鳩舎(上総)が選出。全日本ゼネラルC日賞の受賞数を5回とした。スペシャリストを意識した鳩作りをする。黒田鳩舎は成鳩をメインに前年の実績からマーク鳩を各レースに配置していくスタイル。非常に合理的だ。それゆえに大羽数を擁しながらも5年連続受賞できているのかもしれない。なお今年も「前年の上位入賞鳩」を主にセレクト。さらに「羽毛の艶」、「立ち姿がピンとしている」とコンディション面もチェックし、選抜したようだ。

結果7ポイント獲得。全レース貢献鳩が異なるかと思いきや、前年の地区Nで総合5位を収めた「17LK00734(③&⑤&⑥)」のみ、3レースに参戦し、3点ゲットしている。しかもこの「ゼネラリスト」はスーパーエクスレントピジョンの認定に王手。来年少参戦するのにも注目だ。

さて黒田鳩舎はマークの選定法を始め、あらゆる面で合理的なスタイルをとっており、短期間で日本一を手にしたことは有名である。協会最高賞を毎年のように手にしているが、ゼネラルC日賞はベストマーク賞止まり……。しかしその上を十分狙える術をもっているとなつて、日本最優秀鳩舎賞との二冠「オリエンタルチャンピオン」に最も近い競翔家だと言えよう。



# ンピオン賞・ベストマーク賞



## 小黑良作鳩舎(新潟地区連盟・長岡中央連合会)

獲得ポイント

# 6pt

合計入賞率：0.42450

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①17FB03284	BC	♀	644羽	2位	0.00311
	②17FB03349	BC	♀	644羽	8位	0.01242
	③17FB03202	BC	♀	644羽	31位	0.04814
地区N	④17FB03284	BC	♀	449羽	28位	0.06236
	⑤17FB03202	BC	♀	449羽	67位	0.14922
桜花賞	⑥18FB02486	B	♂	67羽	10位	0.14925



全国 **8位**  
6年ぶり2回目

「6」ポイントとは、過去の実績から全日本ゼネラルCH賞のボーダーラインだと言われている。本年度も残り3枠なのに対し、4鳩舎が「6」ポイント。授賞か否かの境界線となったようだ。四つ巴の中、トップの入賞率をマークしたのが小黑良作鳩舎(長岡中央)。かつて日本優秀鳩舎を射止めた「実力派」は、自身2度目となるベストマーク賞の受賞を決めた。

ポイントゲッターは4羽。うち「17FB03284(①&④)」と「17FB03202(③&⑤)」はRgと地区Nで各1ポイント獲得している。参考にしたのは「データ」と「コンディション」。「データ」面では「過去の成績」を主に選び、GP以外の3レースは「一族の実績」にも注目したようだ。ちなみに系統を外したことが仇となったのか、GPだけがノーポイントとなっている。

小黑鳩舎は年間作出数を3桁台としながらもこの賞レースには25羽でスタート。意外にもレースマンとしては小規模だ。実力さえあれば、大小関係なく受賞できる。全日本ゼネラルCH賞の醍醐味を証明するベストテン入りであった。

最高賞を射止めた  
実力派が2度目の受賞

## 藤井孝彦鳩舎(北陸南地区連盟・福井県連合会)

獲得ポイント

# 6pt

合計入賞率：0.53680

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①16RB00348	BC	♀	859羽	38位	0.04424
	②16RB00292	B	♂	859羽	163位	0.18976
地区N	③17RB07815	BC	♂	470羽	14位	0.02979
	④17RB07865	BC	♂	470羽	30位	0.06383
	⑤16RB00292	B	♂	470羽	50位	0.10638
桜花賞	⑥16RB00173	BC	♀	107羽	11位	0.10280



全国 **9位**  
6年ぶり2回目

「6」ポイントとは、過去の実績から全日本ゼネラルCH賞のボーダーラインだと言われている。本年度も残り3枠なのに対し、4鳩舎が「6」ポイント。授賞か否かの境界線となったようだ。四つ巴の中、トップの入賞率をマークしたのが藤井孝彦鳩舎(福井県)。かつて日本優秀鳩舎を射止めた「実力派」は、自身2度目となるベストマーク賞の受賞を決めた。

ポイントゲッターは4羽。うち「16RB00292(②&⑤)」は、前年のRgで総合24位、地区Nで総合13位に入賞し、連合会AP賞の3位に輝いている。各レースごと、実績を残したレース鳩をマークする——合理的なシステムを採用することで、的中率を高めた感じだ。一方、コンディション面については「掴んで、良い悪いを判断しているようである。」

藤井鳩舎は、全日本ゼネラルCH賞の規程レースを93羽でスタートしている。似た鳩舎規模でベストマーク賞に輝いた黒田鳩舎も同じ方式を採用しており、大羽数をもってマークを的中させるには、このシステムは1つの正解だと言えよう。ゆえに藤井鳩舎も「マークの達人」として、このタイトルを席巻するかもしれない。

北陸が誇る「マークの達人」、再び!



# 第17回(令和元年度)全日本ゼネラルチャ

全国 **10**位  
初受賞



北澤 理鳩舎(千葉東地区連盟・上総連合会)

獲得ポイント

**6pt**

合計入賞率: 0.66654

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①18LK17482	B	♀	4,208羽	133位	0.03161
	②18LK03307	B	♀	4,208羽	572位	0.13593
地区N	③18LK03248	B	♂	3,332羽	397位	0.11915
	④18LK03264	B	♀	3,332羽	374位	0.11224
	⑤18LK17482	B	♀	3,332羽	565位	0.16957
桜花賞	⑥18LK03307	B	♀	714羽	70位	0.09804

JCウイナーが全国デビュー!!

14年にJCを制したことで、一躍脚光を浴びた北澤 理鳩舎(上総)。その後も関東三大長距離レースでベストテン入りを幾度となく重ね、強豪としての地位を確立。その北澤鳩舎が全日本ゼネラルC日賞初受賞を決めた。

獲得数「6」なのに対しポイントゲッターは「4羽」。「18LK17482(①&⑤)」と「18LK03307(②&⑥)」は各2ポイント獲得し、前者は300Kで総合優勝をしている。選定は「データ」と「コンディション」を参考。「データ」面では、GPの2羽目のみ「前レース(地区N)で上位を収めたレーサー」をマークしようだが、他は全て「一族の実績」で「距離を問わない系統」のトリを選んだようだ。一方「コンディション」では、舎外の飛びに注目。持ち寄り「3日前から前日」、桜花賞は「毎日」チェックし、最もスピードに乗っているトリを優先している。今回は全国デビューを果たした北澤鳩舎だが、前述の実績からもかなりの実力者であることは間違いない。全日本ゼネラルC日賞でのランクアップはもちろんのこと、他の最高賞にも絡んでくることであろう。

## 全日本ゼネラルチャンピオン賞・データ

### 全日本ゼネラルチャンピオン賞受賞回数(3回以上)

<b>13回</b>		
及川 茂鳩舎	新日本連合会	↑
<b>6回</b>		
大高 繁鳩舎	北つくば連合会	
吉村 和道鳩舎	宇都宮中央連合会	
<b>5回</b>		
吉田 三男鳩舎	東愛知連合会	
磯島 保博鳩舎	瀬戸内連合会	
鈴木 信義鳩舎	東京南部連合会	
黒田 哲夫鳩舎	上総連合会	↑
<b>4回</b>		
橋本三紀男鳩舎	しらさぎ西連合会	
<b>3回</b>		
鶴岡 英明鳩舎	元・成田連合会	
丹羽 和一鳩舎	三重第三連合会	
杉山 幸正鳩舎	元・静岡中央連合会	
横地 光彦鳩舎	静岡県連合会	
新井 繁鳩舎	埼玉北辰連合会	

※所属は2019年時点

### ダイヤモンドマーク賞歴代受賞鳩舎

年	受賞者	ポイント
2019年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	9 0.42927
2018年	新井 繁鳩舎 埼玉北辰連合会	9 0.54017
2017年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	8 0.24776
2016年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	9 0.28629
2015年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	9 0.31482
2014年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	9 0.52200
2013年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	8 0.25992
2012年	横地光彦鳩舎 静岡県連合会	8 0.59994
2011年	授賞なし	
2010年	吉田三男鳩舎 東愛知連合会	9 0.93155
2009年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	10 0.40588
2008年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	9 0.40910
2007年	大高 繁鳩舎 茨城県西連合会	8 0.33733
2006年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	10 0.29797
2005年	及川 茂鳩舎 新日本連合会	10 0.20747
2004年	今井雅之鳩舎 姫路連合会	10 0.14929
2003年	今井雅之鳩舎 姫路連合会	9 0.11162

※所属連合会は当時